ライフスタイル

探訪 新ライフスタイル

沖縄の魅力高めるチャンプルー文化

伝統と米国統治時代が共存

沖縄料理の定番には、ゴーヤなどの野菜、玉子、豚肉などを炒（いた）めたチャンプルーがある。チャンプルーは「混ぜる」の意味だが、文化や人が交流することも指す。沖縄で独特なのが、戦後から現在まで根付く沖縄とアメリカとのチャンプルー文化だ。1972年に本土復帰を果たすまでは米国統治下にあり、かつ今でも多くの米軍基地があるため、現在進行形でチャンプルー文化が溶け合っている。

じゃらん宿泊旅行調査「都道府県魅力度ランキング」を10年前から見ると、連続して沖縄がトップランしたのは沖縄だった。1971年にマクドナルド銀座店が誕生する8年前に誕生したのが「A&W屋宜原店」であり、現在も当時のドライブイン方式で営業している。A&Wは沖縄県内のみの店舗展開であり、ジョッキに注がれた炭酸飲料のルートビアとバーガーでオールドアメリカンの雰囲気が味わえる。ブルーシールアイスクリームは48年に米軍基地内で米軍関係者のために出店された。その後、63年に浦添市に移転し、沖縄特有のアイスクリーム店として広く親しまれている。特に紅芋や塩ちんすこうなど沖縄特産のフレーバーが観光客に人気だ。

また目につくのがステーキ店だ。米国統治時代に米国人向けにステーキを出す飲食店ができたことがルーツであり、今や飲食した最後に食べる締めのステーキという流れも根付いている。そこで飲まれるのは、爽やかな味わいの地元オリオンビールだ。様々な米国の食文化が持ち込まれ、それらを沖縄の風土に合うように加工し、生活の中に定着したことで強い土地のオリジナリティーとなった。

食文化以外にも沖縄ではアメリカンなショッピングセンターやアメリカンカジュアルファッション、オールディーズのライブハウスなどもチャンプルーの匂いが漂う。一方、国際通りに隣接する平和通り、市場中央通りといった古いアーケード商店街や公設市場も共存し、大きな魅力となっている。商店街には沖縄の伝統を継承する老舗も多く、親子3代で沖縄の郷土菓子外間（ほかま）製菓を営む三代目の外間有里代表は「店がハレの日を彩る文化に寄り添って絆を届けることで独自の伝統が継承される」と話す。

古い伝統生活文化と、チャンプルー生活文化が同居する沖縄だからこそ本土にはないライフスタイルがつくられ、観光業の勝利の方程式につながっていると感じた。

（商い創造研究所代表　松本大地）

米国統治時代の雰囲気を残す
ブルーシールアイスの店舗